

富山県看護連盟 研修会報告	開催日	2020年 10月3日(土)
	時間	9:30~12:00
	場所	看護研修センター 第1研修室

研修会名	県役員・支部役員研修
内容	講演 1 「堅固連盟の現状と課題」
	講師 富山県看護連盟 会長 三谷順子
	講演 2 「看護連盟の組織と役割について」
	講師 日本看護連盟 会長 大島敏子先生

参加人数	57名
------	-----

【研修会内容】

講演 1 令和2年度役員としてどのように活動するか、現状と課題についてお話ししたい。令和2年度の富山県看護連盟の重点方針は、「みえる活動、行動する会員、確かな組織づくり」であり看護の現状を踏まえ看護連盟をどう見るのか考えてもらいたい。そのため自分が会長だったらどう考えるか、行動するかを考え計画していただきたい。富山県看護連盟の組織として15の支部がある。14の地区支部には、支部長、幹事長がいて各施設にはリーダー、サブリーダーを配置し連絡を取り合っている。15支部の1つとして、今年からOB支部が増えた。主に連盟活動をバックアップしていただく。また、連盟には4つの委員会がある。組織強化委員会は、会員拡大、次期参議院選挙に向けた活動をしている。研修委員会は段階的な研修を行っている。広報委員会は、政治と連盟に関する広報活動を行っており、機関紙を発行し、ホームページで最新情報を流している。青年部委員会は、若手の政治への関心を高める活動を行い、12月に富山県ポリナビワークショップを開催する予定である。富山県厚生部医務課が出している「富山県の看護関係者の現状」から連盟会員の現状を考えると看護連盟会員は20~30代が半数以上であるが、就業している年代は、40~50代が半数以上いることから、この年代の方に会員になってもらうと会員が増える。また就業場所は多様化しており、介護施設や民間病院も多いが、会員の多くが公的病院の看護師である。こういう状況から、組織強化委員会は、会員拡大を図るにはどうすればよいか考えていただきたい。会員数の目標4610名であり、目標以上の会員数を目指したい。研修は、投票行動に最も効果的だったと言われているので、研修内容を検討していただきたい。広報委員会は、QRコードからアクセスして多くの人にホームページを見てもらう工夫を考えていただき、最新情報を流していただきたい。若い人達はIT発信が得意なので、連盟を身近にできるような意見を出していただきたい。青年部委員会は名称も青年部推進委員会から変更し構成や人数も強化した。12月12日のポリナビワークショップを楽しみにしてもらいたい。私たち自身の未来を専門職として職能団体の構成員になり志を一つに連盟活動を行っていただきたい。会員数を看護協会会員数の53%から60%に増やしていきたい。



講演 2 「届けよう看護の声を！私たちの未来へ」スローガンが新しくなった。個人のレベルで頑張っても看護職のみんなを守れない、制度を変えて行かないと看護職を守れないと思い自ら志願して連盟の幹事になった。役員の方は、ハンドブックに記載してあることを理解してもらいたい。陳情や嘆願の繰り返しでは解決にならない。看護職の代表を国政の場に送り協会と連盟が一体となって組織的な支援をしていくため議員を国会に送り出す。政治力を強めるため要求をまとめて要望書を政府や省庁と与党に提出し、看護問題小委員会で看護職員が要望を出している。連盟と協会・日本訪問看護財団・全国訪問看護事業所・日本助産師会、全国助産師教育協議会・日本NP教育大学院協議会、日本看護系大学協議会、国立大学看護部長会議、看護系学会等社会保険連合、日本精神科看護協会、認定管理者会、全国保健師教育機関協議会・日本産業保健師会日本産業衛生学会産業看護部会、日本男性看護師会、全国保育園保健師看護師連絡会の団体が、要望書を出している。4月16日に新型コロナウイルス感染症対応看護職に対する危険手当支給を要望し第2次補正予算で医療従事者に対する慰労金支給が決定している。財務省主計局長と会談し危険手当の件について相談する機会もあった。医療従事者に対する誹謗中傷人権侵害ヒアリングでは、看護職の被害事例を紹介している。看護の力で未来を創るためNusingg Nowキャンペーンに取り組む。日本看護連盟は日本看護協会の目的達成に必要な政治活動を行い、あわせて国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的としている。個人の力は弱い、一人ひとりの言葉や行動が国の情勢を左右する世論をつくり1票1票を積み上げる、結果自分が支持する候補者を当選させ政治を行ってもらい、それが選挙で制度変革「投票に行く」という行動になる。看護職の倫理綱領15には看護職の一人ひとりに制度への関心をもちへ参加することを求めている。連盟は看護職の倫理綱領に基づき政治活動・選挙活動を行っている組織である。連盟を身近に感じてもらえるような伝え方、連盟は私たちを守ってくれることを伝える。自立から成長し自律していくことが必要。看護大学では看護政策の講義をしている。学生から連盟を知ってもらう活動をしている。肩書を自分で決めて名刺を配ることを勧めている。



【まとめ】 看護連盟の役割を伝えていくことが大事である。私たちは、制度や法律に守られていることを実感し、連盟の歴史や実績も伝えていけなければいけない。看護の未来を創るのは、私たち自身である。

